弁慶のつづら石

川向字二ツ石、給食センターの裏の雑木林に人目をしのぶようにして大きな石が置かれている。

現在の道路や建物ができる以前は、この地点は菅生から坂道続きであり、そして急坂に向かうところであって、またこの石の周りは杉の木や栗の木が生えていて、夏などは涼しい木陰をつくっていたことから、荷を背負って通る人々は、この大きな石に荷をおろし一休みする場所でもあった。

この大きな石は、いつのころからか、「弁慶のつづら石」といわれ、弁慶が七つ道具を入れて背負い歩いた「つづら」が石と化したものといい伝えられてきたものである。

右（JA皆瀬給油所の裏手）を見上げれば赤い鳥居があって、「二ツ石」と称して大きな岩の間に明神様が祭られていて、養蚕家の信者で賑わったという。